



## 釜石の出来事

校長 今野 敏晴

9月は防災月間です。豪雨、洪水、熱波、この夏も異常気象や自然災害が続きました。また、デルタ株による新型コロナウイルスの感染拡大は、災害級と言われています。横浜市立学校では、9月1日から13日まで、分散登校、短縮授業による教育活動を再開することとしました。感染対策をしながら慎重に教育活動を進めてまいりますので、今後もご協力をお願いいたします。

さて、東日本大震災から今年で10年目となりました。震災からの教訓を忘れることなく未来に引継がなければなりません。災害に対する意識を高め、自らの命は自ら守るスキルを身に付けさせるべく本校でも右のように計画的に避難訓練を実施しています。今年も、夏休みに海に出かける児童もいることを想定し、7月に津波の学習を行いました。感染症が流行すると災害のリスクが減るわけではありませんので、できる限り計画された避難訓練を実施する方向で臨んでいます。

岩手県釜石市には「釜石の奇跡」と呼ばれる出来事が語り継がれています。岩手県の釜石市では、約1,300人ものが亡くなったり、行方がわからなくなったりしました。その中で釜石市にある鶴住居小学校と釜石東中学校にいた児童・生徒約570人は、全員無事に避難することができました。では、児童・生徒達は、どのようにして無事に避難することができたのでしょうか。

「2011年3月11日午後2時46分、釜石は大きな地震に見舞われ、その後に千年に一度と言われた大津波が町を飲み込んだ。当時の釜石東中学校の生徒たちは、部活動や卒業式の練習で忙しく活動していたが、津波の来襲を予想し、校舎にいた生徒も校庭に走り出て、点呼もとらずに、生徒自らが最初の避難場所へ走って逃げた。当初、鶴住居小学校の校舎3階に集まっていた小学生が、これを見て、日頃中学校と行っていた合同訓練を思い出し、自らの判断で外に避難し、中学生と合流した。最初の避難場所で、山側の崖の異変に気付き、さらに逃げなければならぬと判断し、中学生は小学生の手をつなぎ、次の避難場所へ逃げた。しかし、津波が堤防を越えたという消防団員や地域の人々の声に反応し、子ども達はさらに高台までかけのぼった。このあと学校やまちは津波にのまれたが、子ども達は全員、無事に避難することができた。」

この行動が、「釜石の奇跡」と呼ばれた出来事です。しかし、子ども達は、「奇跡ではない。日頃学んだことを行っただけだ。」と話しています。「釜石の奇跡」は、子ども達が、この地域で日頃から行われていた防災教育で学んでいた行動を当たり前実践した結果が起こしたものです。現在は、奇跡ではなく「釜石の出来事」として語り継がれています。子ども達は、「想定にとらわれない」「状況下において最善をつくす」「率先避難者になる」という「避難3原則」を徹底して身につけていたのです。

安心・安全な学校づくりには、状況に応じて的確に判断できる教職員、危険を予測し回避する子ども達の育成が必要です。備えあれば憂いなしと言いますが、備えてもなお憂いを忘れず、災害についてより確かな備えを目指し、見直し・改善を不断に続けてまいります。9月に震度7を想定した総合防災訓練を実施いたします。この機会にご家庭でも火災や地震などの備えについて話題にさせていただけますよう、ご協力お願いいたします。

R3 小雀小 避難訓練実施計画		
月	訓練内容	想定
4	火災	校舎裏から出火
5	地区別集合訓練	台風接近
6	引き取り	大地震
7	火災	理科室から出火
9	総合防災	震度7
10	不審者	不審者侵入
11	火災	二次避難
12	地震	清掃中
1	火災	家庭科室から出火
2	火災	予告なし
3	地震	卒業式時